

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 28 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	アジア経済発展論研究会
<b>代表者名</b>	三重野文晴（東南アジア地域研究研究所）
<b>事業概要</b> (600 字程度)	<p>京都大学大内の各部局に分散している経済発展論・開発経済学・アジア経済研究系の研究者の研究交流の場として、当該分野の研究報告・討論をおこなう定期的研究報告セミナーを開催した。経済学研究科、東南アジア地域研究研究所、農学研究科を中心に多くの教員、研究者、大学院生が参加し、アジア経済と開発経済学の先端研究の現状の理解を深めた。8回のセミナーに17人の研究報告を実施し、学内の研究者・院生のアジア経済研究・経済発展論の分野の活性化をもたらした。招聘者のうち8人は世界的に著名な研究者を含む海外の研究者である。</p> <p>事業経費は、この学外報告者招聘のための旅費・宿泊費・日当・謝金として効果的に支出された。</p>
<b>成果の概要</b> (800 字程度)	<p>以下の8回の研究セミナーを開催し、17の研究報告が行われた。セミナーのうち3回は半日ないし一日を通したワークショップとして実施され、特に、12月にはチュラロンコン大学との国際研究集会を開催した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2017年3月27日（木）Mini Wotkshop II 報告者 Paul Clist (University of East Anglia), Stephan Litschig (政策研究大学院大学)</li> <li>2. 2017年3月2日（木）Mini Wotkshop I 報告者, 高野久樹(京都大学), 島村靖治(神戸大学), 樋口裕城(名古屋市立大学), 神谷祐介(龍谷大学), Paul Saumik (一橋大学) Johann Caro-Burnett (広島大学)</li> <li>3. 2017年2月23日（木）金子勝規(大阪市立大学), "ASEAN Economic Community and Internationalization of Private Hospitals in Thailand"</li> <li>4. 2017年2月16日（木）小暮克夫(大阪大学), "Some Remarks on the Causal Inference for Historical Persistence"</li> <li>5. 2016年12月3日（土）Joint Workshop with CSEAS&amp;GSE, Kyoto University, and Faculty of Economics, Chulalongkorn University, 報告者 Piti Srisangnam, (Chulalongkorn U) ., Yalei ZHAI (Graduate School Student, Kyoto U). Go Yano (Kyoto U), Jessica Vechbanyongratana (Chulalongkorn U.)</li> <li>6. 2016年7月19日（火）, 黒崎卓 (一橋大学), 「零細企業家のリスク・時間・社会的選好: インド・デリーの伝統・近代セクター比較」</li> <li>7. 2016年7月7日（木） Souknilanh Keola (Bangkok Research Center, IDE-JETRO), "Monitoring Development from Space: Application of Remote Sensing Data in Economics"</li> <li>8. 2016年6月15日（水）, Euston Quah (Nanyang Technological University), "Cost-benefit analysis: are principles the same for developing and developed countries"</li> </ol> <p>昨年度に続き、京都大学を中心とするアジア経済研究のコミュニティーの形成に大きな成果があった。</p>

